



京都大学大学院 地球環境学舎同窓会会報



第 14 号
(2017 年 8 月発行)

目次

巻頭言.....	1
学舎長挨拶	5
1. コラム<会員からのお便り>.....	7
コラム1 松井理恵さん（2002年度修士課程入学、第1期生）.....	7
コラム2 木原友美さん（2012年度修士課程入学、第10期生）.....	9
2. 平成28（2016）年度開催 第13回総会について	12
3. 同窓会からのお知らせ.....	16
1) 連絡先について	16
2) 会費の支払い方法について	16
3) メーリングリスト利用案内.....	18
4) 卒業記念品.....	18
5) 学舎同窓会ホームページと Facebook グループページのご案内	19
6) 地球環境学堂・学舎・三才学林の Facebook ページ.....	19
7) 2017年度 総会・懇親会のご案内	19
8) 同窓会役員（2017年度）	19

巻頭言

地球環境学会同窓会会長 田中俊徳
(五期生・地球環境政策論分野修了)

「持続可能な同窓会を目指して」

残暑の候、皆さまに置かれましては、益々ご清祥のことと存じます。私事ながら、会長に就任して4年が経過いたしました。当初より4年をめぐりにバトンを引き継ぎようとしておりますので、これが最後の巻頭言になると思います。しばしお付き合いください。

私は、環境学を学ぶ人に広く知られる *State of the World* (「地球白書」) の翻訳チームに入っています。去る2016年12月に *State of the World 2013* が「地球白書2013-2014」として発刊されました。その第一章で、今の時代は「サステナブル」ではなく、「サステナバブル」の時代だと書かれています。つまり、何にでも「持続可能な」とつけてさえいけば許される、そんな“持続可能性”がバブル的に切り売りされる時代になっているというのです。下記は、「地球白書2013-2014」の内容紹介から抜き出した一文です。

「持続可能な車」「持続可能な下着」まで、「持続可能な(sustainable)」という言葉が、メディアにあふれている。2012年、英国は「史上初の持続可能なオリンピック」を目指したが、この場合の「持続可能な」とは人間や地球に何が起ころうと、4年に1度のイベントのために「永遠に続く未来」のことを指しているのだろう。環境への影響を基準にすれば、古代ギリシャは無論、20世紀の大会の方が、ずっと「持続可能」だった。本書のテーマは「持続可能性は、まだ実現可能なのだろうか」である。

元来、サステナビリティ（持続可能性）とは、地球や将来世代のために、現状（business as usual/BAU）ではいけないことを前提として、それを克服することに重きを置いた倫理的な概念でした。しかし、近年濫発される「サステナビリティ」は、オリンピックの例にあるように、他者や環境のことはともかく、「自分たちのビジネスを続けるのだ」という程度の意味での“サステナビリティ”に成り下がっているとと言えます。

例えば、2020年の東京オリンピックは、7月24日から8月9日に予定されています。ヒートアイランド現象にあえぐ東京が一番暑い時期です。選手や観客の体調は大丈夫なのだろうか心配になります。思い返せば、1964年に実施された東京オリンピックは10月10日の開会でした（祝日である「体育の日」の起源）。10月10日に開催された理由は、真夏の東京は、気温も湿度も高く、9月は秋雨前線で雨が多かったことが配慮されたためです。しかし、2020年になって最も暑い時期が選ばれた理由は、残念なことに「ビジネス」的なものです。つまり、世界で人気のあるアメフトやプロ野球、サッカーなどの重要な試合がない日程が選ばれているのです。その方が、より多くの人が見聴するので、スポンサーから高い放映料収入を得ることが出来るためです（かつては体育教師の参加すら許されないほどアマチュアリズムが理念として徹底されてきたオリンピックとしては皮肉な状況です）。経済学者として知られるカール・ポランニ一的な言い方をすれば、「経済にスポーツが従属している」状況だと言えます。

千年以上続いた古代オリンピックが潰えたのには二つの段階がありました。一つ目に、買収や権力の乱用といった不正によって人心が離れたこと。暴君として知られるネロは、自らが勝者となるために、開催年をずらしたり、競技を勝手に追加したりしました。次に、信仰の革命があります。4世紀にキリスト教が広まると、ゼウスを祀る古代オリンピックは衰退し、途絶えました。近代オリンピックを鑑みるに、すでに、第一段階である買収や権力（経済力）の乱用による「人心の乖離」が起こっている状態ではないかと思えます。その証左として、オリンピックの開催に手を挙げる候補地は激減しています。

オリンピックはあくまで一例ですが、同じような現象が様々な分野で生じています。政治の世界や学問の世界もしかり。決して、経済に従属してはいけない分野が、そうになってしまうことが危惧されます。近視眼的な「役に立つ」が重視されて、人類の「叡智」が軽視されるなどのもつてのほかですし、研究者も論文数やインパクトファクターのような数値を過度に重視する風潮は戒められるべきです（詳細は省きますが、この現象もまた、多分に経済的な問題です）。宗教や伝統的な価値規範が衰退し、すべてが価値中立的で平等で透明になっていく一方、経済的な構造が幅を利かせることで、失われてしまうものも多いのが実情です。自然や文化の保全を研究している立場からすると、現代は「多様性」を標榜しながら、実は、かつてないほどに多様性を失いつつある時代だと私は考えています（LGBTやパラリンピックのような部分だけを見て「多様性の時代」と考えるのは早計です）。例えば、動植物に目を向けると、現代は、地球史上6度目の大量絶滅期を迎えていますし、facebookやInstagramに代表されるSNSは、国籍やジェンダーといった従来の境界を飛び超えているように

見えて、実際には、私たちを、より一層同質で、他者に無関心な人間集団に分けていただけだとも言われます（見せかけの多様性）。

私自身、大学でサステナビリティ学を標榜する部署で勤務していることもあり、時に、深く考えずに「持続可能性」や「多様性」という言葉を使ってしまうことがあります。しかし、文脈によっては、持続可能であることよりも、「自律可能」であることの方が大切な場合もありますし、そもそも、誰にとつての「持続可能性」や「多様性」なのか、十分に留意する必要があると自戒することもあります。

学舎同窓会は無償のボランティアで運営されています。営利を目的とした組織ではありませんし、「役員」という言葉も名ばかりで、忙しい職務や学業の合間を縫って、多くの雑務をこなしてくれています。地球環境学舎の修了生という共通項こそありますが、修了年もバラバラで、互いの顔を知らない人とメールでやり取りすることもあります。同窓会に対する考え方も色々であるがゆえに、この4年間は、学舎の多様性を感じる有意義な時間でした。

在任期間中に、私は、二つのことを目標にしていました。一つは、出来るだけ修了生が実際に集える機会を増やすこと。もう一つは、持続的な同窓会運営を行うために、役員の固定化、マンネリ化を避け、流動性を高くすることです（特に留学生や女性役員の比率を高めること）。前者については、懇親会の担当幹事も置いて、実際に集える機会を増やすことはできましたが、まだまだ参加者や参加機会の裾野を広げないといけないという反省が残りました。役員の流動性については、ある程度達成できたと思いますが、留学生や女性を増やすことはあまり達成できませんでした。特に留学生の幹事を入れることは私のやり残したことです。学舎の在学生・修了生に占める留学生の割合が他の研究科よりも高いことは間違いなく、いかに留学生への対応を深められるかは、これからも引き続き検討したいと考えています。

「4年」という期間は、オリンピックの開催周期であり、アメリカ大統領の任期であり、日本やアメリカの学士課程と同じ長さです。リオから東京へ、オバマ大統領からトランプ大統領へ、そして、十代の青年が社会人として独り立ちする期間に相当します。長いようで短く、短いようで長い期間です。

学舎同窓会が、多様性に富む修了生や在学生、教員を縦横に繋ぐことのできる組織として、発展することができるよう、これからも皆様のご協力を宜しくお願い致します。

2017年8月5日

台風五号の襲来を待ち受ける鹿児島にて



2014年5月31日に開かれた学舎同窓会設立10周年記念パーティーの様子
(一番思い出深い出来事)

学舎長挨拶

地球環境学舎長 舟川晋也

平成28年4月から第6代目の地球環境学舎長となりました舟川晋也です。このたびは、京都大学大学院地球環境学舎同窓会会報第14号に寄稿する機会を頂き、大変光栄に思います。この機会を利用して同窓会の皆様に、地球環境学舎・学堂・三才学林の近況を報告させていただきます。

地球環境学堂・学舎では、平成27年度より新たな継続的大型2事業（概算要求特別経費（H27-30）、スーパーグローバル大学（JGPプログラム・H27-31））を開始しました。これまでASEAN諸国を中心として展開されてきた教員交流、シンポジウム開催、特別聴講生コース（H25～）、若手研究者シードファンド助成（H25～）、短期学生研修（H25～）など諸大学との教育・研究プロジェクトにおける成果をふまえた活動であり、一方では頭脳循環プログラム（H25～）において意識された欧米諸大学との連携をより強化する活動を引き継いだものでもあります。これらの事業では、単位互換制度・短期留学制度の拡張やダブル・ディグリー制度の構築などさらなる教育の国際化、クロス・アポイントメント制や企業コンソーシアム形成を通じた多様なセクターとの連携など、従来の活動をさらに深化させる取り組みが計画されています。

これらの教育プログラム上が実施されるにしたがい、スプリング・スクールによる短期交流学生（約3週間の短期留学生）や特別聴講学生（半年間の留学生）が学舎学生と机を並べるようになり、また修士10月入学も開始されるなど、多様な留学生を受け入れる体制となっています。一方今年度からは、タイ国マヒドン大学、インドネシア国ボゴール農業大学と地球環境学舎の間でダブルディグリー・プログラム（日本人学生の協定校への派遣・留学生の受入）が開始され、日本人学生にとっても、多様な学びの機会が得られるようになってきています。今私たち学堂教員がイメージする地球環境学舎は、より多様なバックグラウンドを持つ学生たちが、地球環境学舎における環境学の学び・実践を通して、それぞれの目標を達することができるような、きめ細かでありかつ多様に富んだ教育研究環境の実現です。

私たち地球環境学舎の同窓会は、その結束力の高さがとてもユニークなところだと私も考えているのですが、やや遅きに失しながらも、京都大学全体でも同窓会活動を

大切にしていこうという気運が高まっています。皆さん地球環境学舎修了生の方々のご活躍を祈念するとともに、その活動・活躍こそが私たち地球環境学堂・学舎の存在意義を世界に示してくれるものになるのだということを、私自身も再度確認したいと思います。

末筆ながら、あらためて皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

平成29年8月4日

1. コラム<会員からのお便り>

コラム1 松井理恵さん（2002年度修士課程入学、第1期生）

地球環境学舎 15周年に寄せて

学舎第1期生（景観生態保全論分野）の松井です。

私は2004年3月に環境マネジメント専攻を修了し、建設コンサルタント企業（パシフィックコンサルタンツ）に入社しました。これまで、主に環境アセスメント関連、自然環境の調査や保全等に関わる仕事をしてきました。大阪で11年間勤務したのち、2年ほど前から本社に転勤となり、今は東京にいます。

このたび、学舎15周年にあたり、1期生にコラムを依頼したいということでお話をいただきました。私が1期生として入った頃「学舎は5年間だけ期間限定の大学院らしい」という都市伝説？がありました。今や15年。平成生まれの後輩たちの眩しさに目を細めております。

1. 学舎当時の経験から今に繋がっていること

振り返って思うと、学舎には2タイプの人がいるように思います。

タイプ1は、環境への強い思いがあり、自分のやりたいこと、そして自分のキャリアの中で学舎をどう活かすかはっきりしている人。多くの社会人学生の方や、今風に言うと「意識の高い」学生たち。

タイプ2は、環境に関することを何となくやりたいけど、「環境」という言葉の幅広さの前に戸惑い、広い分野を見ながら考えていきたい人。「環境系自分探し派」とでも呼ぶような存在でしょうか。

1期生は、さすが自分たちで歴史を創る気概を持った猛者、タイプ1の方が集結していました。そんな中、私は100%後者、「自分探し派」でした。当時は、自分の進む道をもっとはっきりさせたいと焦る気持ちもありました。

今は、“志を持って学び働いていく人”、“学び働く中で志を見つける人”、それぞれの道やタイミングがあるのかなと思います。15年経った今も、私の環境分野の中での「自分探し」は、完全には終わっていません。でも、たくさんの現実を経験してきた中で、たとえ少しずつでも、現実の隙間から理想に向かっ

てできることを探していくのが、やりがいを持って働くということなのかな、とも感じています。

そして、学舎を出た後の環境との関わり方はそれぞれですが、みんな、より良い環境に向けて実際のアクションにつなげたいという同じ思いを持っていると感じています。私は先日、学舎の東京会に初めて顔を出してみたのですが、松下先生の笑顔、学舎の後輩みなさんの活躍のお話から、学舎の良さを改めて感じるとともに、これからの自分がどういうことに取り組んでいくべきか、改めて考える時間にもなりました。

2. 後輩の皆さんへ

それぞれが自分で考える“学生のうちにしかできないこと”を、精一杯やってほしいと思います。自分の専門分野ではないけど、すごく話の面白い先生の講義を聞きに行くとか、研究室にいつの間にか入り浸っている正体不明の人と仲良くなるとか、柴田先生と吉田山の前にある屋台で朝まで飲み明かすとか、そういう、かけがえのない時間を大事にしてほしいなと思います。

そして、「大学院」でなく「学舎」という名前には、いつでも帰ってきて交流できる場所、という思いが込められているのではないのでしょうか。

これからも、学舎から羽ばたいていく人たちの活躍と交流を楽しみにしています。



学舎同窓会、東京会の写真

学舎とその後の活動との接点

2014 年度に生態系生産動態論分野を修了しました、学舎 11 期生の木原友美（旧姓：西埜）です。在学中は、マングローブの根の調査・研究や同期との飲み会にほとんどの時間を費やしました。卒業後、人材育成コンサルティングの会社を経て、現在は社会問題を解決するための事業の企画・運営や社会起業家の育成を行う株式会社ボーダレス・ジャパンにて勤務しています。“ソーシャルビジネス”という言葉が日本でも使われるようになったのは、1990 年代あたりからだそうですが、特にここ数年、テレビや雑誌などでも頻繁に目にするようになりました。一種の流行りのようにもはやされているようにも思われますが、実際にはどの企業も、ソーシャルビジネスと謳っていなくとも社会をよくするために事業を行っているのだと思っています。また、一方でソーシャルビジネスも、ビジネスである限り儲けは必要です。働く人も必ずしも「社会貢献をすることで満足しているから収入は低くていい」というわけにはまいりません…。

ソーシャルビジネスと既存のビジネスとの違いを述べるとしたら、ビジネスモデルの立てる順序に違いがあるのではないのでしょうか。ソーシャルビジネスを立ち上げる時には、まず「どこのどんな問題を解決したいか」から考えます。そして、現地でできる事業内容を考え、収益が立つかどうかを試算しながら、事業内容を修正していきます。試算した収益の割に、解決したい問題に対しあまりインパクトが出ない場合、スタートしかけたビジネスモデルを白紙に戻すこともあります。“どこのどんな問題”という制限がつく分、実現可能なモデルを考え出すまで難しくはありますが、例えば、「自社で創ったバンングラデシュの工場の現地スタッフが、700 人にまで増えた」など、ダイレクトに効果がわかるので、やりがいに繋がっています。

さて、気づけば社会人 4 年目。同社では現在貧困問題にかかわる事業が多いですが、いつかは日本の森林問題にかかわる事業ができたらと思っています。林業に直結するノウハウが自社内にはないことは不利なことも多いですが、林業に限らず様々な事業体のある雑多な環境にこそ、既存の業界にはない問題を打破できるヒントが隠れている気がします。学舎では、私たちは学ぶ立場でしたが、それぞれが“環境”に纏わる様々な問題に興味をもち、違う価値観から話し

合えたからこそ感じる事ができた面白みがありました。ビジネスでも、一方からの見方に偏らず、他業界からのヒントを見逃さないようにしたいと思っています。加えて、他業界に散らばっていったかつての仲間との繋がりも、大切にしたいと思います。



個人的な視察で、バイオマス発電に使うチップの山を見せてもらいました。
(@北海道)



ビルに囲まれて生活していても、たまには山へ出かけて初心に帰ります。 (@御嶽山)

.....

本コラムは、会員間の交流の一環として会員の方々のご好意によりご寄稿頂いています。このコラムを通じて、学舎の先輩、後輩、同級生の活動を知る一助となれば幸いです。コラム執筆にご協力いただきました松井理恵さん、木原友美さんに、心よりお礼申し上げます。

コラム寄稿者紹介（敬称略）

松井 理恵（まつい・りえ）：
環境マネジメント専攻修士課程 2002年4月入学、第1期生

木原 友美（きはら・ゆみ）：
環境マネジメント専攻修士課程 2012年4月入学、第10期生

2. 平成 28 (2016) 年度開催 第 13 回総会について

「京都大学大学院地球環境学舎同窓会 第十三回総会」を以下の通り開催しました。前回の総会は、同窓会として初の試みである東京と京都の二拠点同時開催となりました。活発な議論がなされ、会員からの承認を要する項目に関しては、事前および当日の投票により承認を頂きました。ありがとうございました。

【日時】 : 2016年11月19日 (土) 16:00 ~ 18:00

【場所】 : 京都 : 京都大学 吉田キャンパス総合研究 5 号館 1 階会議室
東京 : 京都大学 東京オフィス

【議題】 :

< I. 役員会・事務局について >

1. 役員候補の紹介・承認
2. 事務局紹介

< II. 活動報告と今後の活動継続の承認 >

3. 2016年度名簿・会報作成の報告
4. 就職ガイダンスの報告
5. WEBサイト運営の報告
6. 卒業記念品に関する報告

< III. 事業計画の承認 >

7. 年間事業計画

< IV. 会計に関する報告と承認 >

8. 2016年度(2015年9月~2016年8月)決算報告と承認
9. 2017年度(2016年9月~2017年8月)予算案の報告と承認

< V. その他 >

10. 意見交換

【議事録（抜粋）】：

I. 役員会・事務局について

→会報末尾にて紹介一覧

II. 活動報告と今後の活動継続の承認

1. 2016年度名簿・会報作成の報告

2013年度修了生、2014年度入学生の情報を反映した名簿を作成した。

2. 就職ガイダンスの報告

開催時期を例年の6～7月から次の年の1月に変更。

3. WEBサイト運営の報告

引き続き運営。学堂事務との連携も必要。

4. 卒業記念品に関する報告

名刺入れは売れていない。卒業生自主作成のカレンダーについては後述。

III. 事業計画の承認

5. 年間事業計画

→総会、就職ガイダンス、修了生祝賀会での同窓会案内、新入生（2018年度）歓迎会での案内、会報作成

IV. 会計に関する報告と承認

→全て承認。収支報告一覧は後述。

*収入に関連して、同窓会費の徴収についての議論

←2016年度の修了式では徴収しなかった。

→2017年度の修了式では何かしらの方法で、原田先生が担当で集金（+使途説明も？）する

意見交換

・事務局長の仕事、事務局制度の是非

→事務局長の業務は縮小していく。これまでの事務局員の仕事は基本的にバイトとして雇って進めていく。

・記念カレンダー作成について

→同窓会で費用を出しても良いかも、ただし払った学年とそうでない学年の不公平が生じる。卒業記念品自体はあってもなくても良いのでは？

議事録以上。

【2016年度同窓会収支】

2016年度の一般会計収入の予算・決算対比

(単位：円)

項目	摘要	予算	決算	備考(決算時)
同窓会会費収入	終身会費	40,000	0	
	単年度会費	5,000	0	
	小計	45,000	0	
記念品販売収入		7,560	0	
寄付		0	0	
総会経費未払金		0	8,856	総会経費(京都大学東京オフィス 品川)会議室1借上代(2015年11月7日(土)4,428円×2時間)について2016年度会計にて未払のため、2017年度会計に繰越。
雑収入		0	1,550	受取利子(50円)、同窓会会費過払金(500円)
積立金繰入		180,000	180,000	積立金の一般会計への移管
前年度繰越金		248,830	248,830	
収入計(A)		481,390	439,236	

2016年度の一般会計支出の予算・決算対比

(単位：円)

項目	区分	摘要	予算	決算	備考(決算時)
事務費	通信費		0	0	
	印刷費		2,000	0	
	事務用品		5,000	200	
	その他事務費		2,000	0	
	事務費小計		9,000	200	
事業費	同窓会加入のための 勧誘活動		4,000	0	
	名簿・会報経費	印刷費、郵送費、物 品費等	5,000	0	
	就職説明会経費		0	0	
	総会経費		23,000	8,856	京都大学東京オフィス(品川)会議室1借上代 2015年 11月7日(土)4,428円×2時間
	同窓会ホームページ 作成経費		0	0	
	事業謝金		24,700	0	
	事業費小計		56,700	8,856	
予備費		20,000	0		
次年度繰越金		395,690			
支出計(B)		481,390	9,056		

2016年度の一般会計収支

(単位：円)

収入の部	439,236 (A)
支出の部	<u>9,056 (B)</u>
次年度繰越金	430,180 (C)=(A)-(B)

(2) 積立金

2015年度までは例年の積立金10,000円を計上し、2015年度現在、積立金残高は180,000円となっています。2016年度からは会計処理の簡素化のため、積立金会計を廃止し、一般会計に組み入れました。

(単位：円)

2015年度積立金残高	180,000
一般会計への移管(積立金会計廃止)	<u>-180,000</u>
積立金残高	0

3. 同窓会からのお知らせ

1) 連絡先について

同窓会へのお問い合わせ・質問・ご意見等は以下のアドレスまでお願いいたします。

→ ges.alumni.bureau@gmail.com

2) 会費の支払い方法について

①年単位の支払い制度

年単位でお支払いいただく会費は、以下のように年度によってお支払い頂く額が異なります。

	2009 年度まで	2010 年度以降
正会員 (一般)	300 円/年	500 円/年
正会員 (在学)	200 円/年	
準会員	200 円/年	無料
特別会員	300 円/年	無料 (2015 年度以降)

ご自身の支払い状況が明確でないかたは、恐れ入りますが、上記の連絡先までお問い合わせください。

また 2012 年度 (2011 年 9 月～) より、第 8 回総会での承認を経て、終身会費も導入されました。年単位の会費を支払っていただいている会員の皆様も、お支払いいただいた金額が終身会費額に達しましたら、自動的に終身会員となりますので、ご了承ください (「②終身会費支払い制度」参照)。

②終身会費支払い制度

2011 年 9 月 19 日に実施されました第 8 回総会において、同窓会役員会より終身会費制度の導入が提案され、総会に参加されておられていた会員、事前投票を送ってくださった会員の賛同を得て承認されました。

この終身会費導入の目的は、会員の会費支払いおよび同窓会事務局の会費会計処理の負担を軽減することにあります。

これにより、終身会費をお支払いいただいた会員には終身会員となっていた
だき、それ以降の会費支払いはお求めいたしません（終身会費額が変更された
場合も、変更前に終身会費をお支払いいただいていた会員には、変更差額等要
求いたしません）。

また終身会費でなく年単位の会費をお支払いいただいている会員のかたも、
お支払いいただいている総額が終身会費額に達した時点で終身会費をお支払い
いただいたものと見なし、終身会員となつていただきます。

③支払い方法

会費の支払い方法は①ゆうちょ銀行口座への振り込み、②事務局員への手渡
しがあります。ゆうちょ銀行口座をご利用頂く場合、下記の口座に振り込みを
お願いいたします。

ゆうちょ銀行 振込受取口座

【振込先名】 京都大学大学院地球環境学会同窓会

(キョウトダ イカクダ イカクインチキユウカンキョウガクシヤト ウソウカイ)

【店番号】 448

【預金種目】 普通預金

【口座番号】 2799694

ゆうちょ銀行振り込みによる支払い方法をご利用の際、同窓会連絡先
（「1」連絡先について）参照）まで「〇〇年度会費」または「終身会費」を
支払ったとご一報いただけますと幸いです。より正確な会計管理のためにご協
力をお願いいたします。

⑤現在までの会費支払い状況の確認方法

これまでにお支払いいただいた会費の総額、未納の会費等、不明な点がござ
いましたら、上記、同窓会連絡先までご連絡ください「1) 連絡先について」
参照）。会員の皆さまの人数に対して、役員会・事務局で担当する人数に限り
があるために回答までに時間がかかることもございますが、ご了承ください。

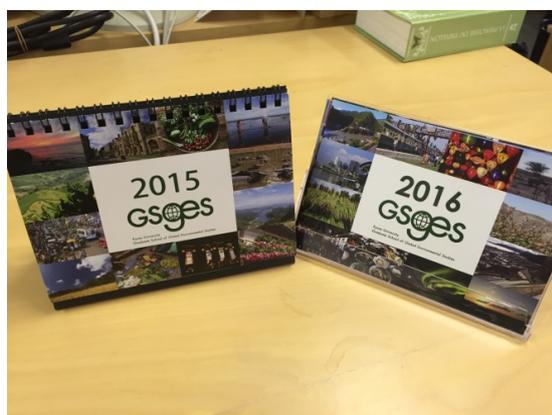
3) メーリングリスト利用案内

同窓会では2010年12月7日よりML（メーリングリスト）を設置し、会員の皆さまに情報を発信しております（ges.alumni.bureau@gmail.com）。ただしメールの誤送信の予防、セキュリティ、ジャンクメールなどの防止等の観点から、現状ではこのMLは一方通行で使用しており、管理者のみがメールを配信できるように設定されています。同窓会メーリングリストを利用して、会員の皆さまに情報の発信をご希望されるかたは、上記、同窓会連絡先までご連絡ください。

4) 卒業記念品

同窓会の卒業記念品を今後どのような形で進めていくかは、継続的に検討していきたいと思っております。今年も卒業生が自主的に「GSGES カレンダー2017」を作成しました。1冊500円で販売しています。謝恩会の受付にて販売したところ、修了生だけでなく、在学生やOBOG、先生方、事務の方々からもご好評でした。

GSGES カレンダーは、2014年度の修了生有志によって2015年度版が製作されて以降、3年間にわたり製作されてきました。カレンダーには、修了生たちがインターン研修や現地調査で撮影した、国内外様々な土地の写真を使用しています。残念ながら2018年度版製作の予定はありませんが、過去のカレンダーは購入可能です。購入を希望される方は同窓会連絡先までご連絡ください。



5) 学舎同窓会ホームページと Facebook グループページのご案内

就職ガイダンスの情報等を告知する場や、卒業生の活動を伝える情報のプラットフォームとして、現在学舎同窓会はホームページを運営しています。ホームページでは、過去の会報等を公開しております。

また、Facebook ページは、誰でも書き込めるように設定しておりますので、会員の皆様の交流や情報交換の場としてご活用頂ければ幸いです。

①HP アドレス→ <http://gsgesalumniwebsite.blog14.fc2.com/>

②Facebook → Facebook にログイン後、「地球環境学舎同窓会」で検索！

6) 地球環境学堂・学舎・三才学林の Facebook ページ

現在、地球環境学堂・学舎・三才学林では、Facebook ページを開設し、教員のみなさんや現役学生たちの活動の様子を活発に発信しています。ぜひご覧ください。

→Facebook で「Kugsges_京都大学大学院三才学林・地球環境学堂・学舎」で検索！

直接リンク：<https://www.facebook.com/Kugsges> 京都大学大学院三才学林地球環境学堂学舎-1271788376222251/

7) 2017 年度 総会・懇親会のご案内

2017 年度の同窓会総会・懇親会は 2017 年 10 月 21 日（土）を予定しております。今年も東京と京都の二拠点で同時に開催したいと思います。会場は追ってメーリングリストにてご案内いたしますが、会員の皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。

8) 同窓会役員（2017 年度）

《会長》	田中 俊徳	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2008年修了 地球環境学専攻博士課程2011年修了 在学時所属：地球環境政策論分野 現所属：東京大学大学院新領域創成科学研究科(特任助教)
《副会長》	山崎 衛	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2011年修了 在学時所属：環境調和型産業論分野 現所属：パシフィックコンサルタンツ株式会社

《幹事》	原田 英典	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2004年修了 同博士課程2007年修了 在学時所属：環境調和型産業論分野 現所属：地球環境学堂（助教）
	細谷 直史	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2006年修了 在学時所属：環境生命技術論分野 現所属：日本イーライリリー
	内山 智晴	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2012年修了 在学時所属：地球環境政策論分野 現所属：伊藤忠商事
	飯田 義彦	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2009年修了 地球環境学専攻博士課程2015年修了 在学時所属：景観生態保全論分野 現所属：国連大学IAS-OUIK（リサーチ・アシエイト）
	枚本 友里	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2015年修了 在学時所属：環境教育論分野 現所属：国立環境研究所 社会環境システム研究センター 高度技能専門員
	吉積巳貴	正会員 地球環境学専攻博士課程2005年修了 在学時所属：地球益経済論分野 現所属：京都大学 学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニット（特定准教授）
	佐藤天時	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2012年修了 在学時所属：環境コミュニケーション論分野 現所属：野村不動産株式会社
《監事》	長谷川 知子	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2008年修了

	工学研究科博士課程2011年修了 現所属：国立環境研究所（研究員）
籠橋 一輝	正会員 環境マネジメント専攻修士課程2006年修了 地球環境学専攻博士課程2012年修了 現所属：南山大学社会倫理研究所（講師）

《事務局長》	時任 美乃理 正会員 環境マネジメント専攻修士課程2013年入学 地域資源計画論分野D3
--------	--

京都大学大学院地球環境学舎同窓会会報 第14号（平成29年度会報）

平成29年8月31日発行

発行者：田中 俊徳（平成29年度 地球環境学舎同窓会会長）

発行所：京都大学大学院地球環境学舎同窓会

責任者：杵本友里・細谷直史（平成29年度 会報担当役員）



地球環境学舎同窓会 平成29年度：平成28年9月～平成29年8月